

正しい日本語が英語力の価値を高める

豊富な語彙が的確な表現を可能にする

… (略) … 「字幕翻訳には、2つの段階があるんですね。ひとつは、しゃべっている内容を解説すること。ここで外国語の能力が必要になります。そして次に、解説したものを、日本語でどう表現するかを考えていく。実は、字幕に大切なのは、その2つ目の段階なのです。作品の中の会話を、いかに豊かに日本語で再現するかそこが勝負です。ですから字幕翻訳は、外国語の能力よりも、日本語の力が要求される仕事です」

語学力を生かした仕事に憧れる女性が多い。字幕翻訳もそのひとつ。でも、外国語さえできればそうした仕事に就けると考えるのは、間違った考え方のようだ。むしろ、熟練した日本語こそが必要なのだ。しかも、文字数が限られている映画字幕では、最小限の日本語で観客に多くのことを伝えなければならない。日本語に対する意識も、当然、より深まってくる。

「人って、しゃべるスピードより読むスピードのほうが遅くて、だいたい1秒に4文字ぐらいしか読めないんです。ですから、字幕に入る情報は、上手くいって、しゃべってる内容の7割。最悪の場合は5割。全てを盛り込むことはできません。そんなことから、字幕は、長い会話を短くする必要が生じます。でも私は、切り落とすのではなく、濃縮するといっています。その人がいちばんいいたいことは何なのか、会話のエッセンスをつかみとるといのかしら。で、それを表現するのに最適な、日本語を探していくわけです」

伝えたいことが濃縮された言葉を選ぶ。字幕翻訳に必要なこの作業は、日常会話にも通ずるものだと、古田さんはいう。会話というものは、やはり、何がいいたいのかがわかることが最も大切だからだ。では、どうすれば、的確に伝わる言葉を選べるようになるのだろう。

「まず、語彙を豊富に持っていることが必要だと思います。翻訳をするときにも、訳し方をひとつしか知らないのと、たくさんの選択肢を持っているのでは、違ってくるんですね。たとえば、“エレガント”という言葉

が出てきたとしますでしょ。“優美”と訳すのか、“上品”と訳すのか、それとも、別の言葉のほうがいいのか
かそうやって、その人の思いに近い言葉は何なのかを突きつめていくんです。

英語には「art of conversation」という言葉があります。あえて訳すとしたら『会話の美学』。つまり、会話を
いかに美しくオシャレにするかが大事なのです。大人の一種のゲーム。19世紀のフランスのサロンではそ
んな会話が飛び交っていたに違いありません。」

言葉を多面的に捉えるために、古田さんも日々努力している。類語辞典をひも解くことも多い。そればかり
か、人名や地名から、医学、ファッション、コンピュータ、六法全書まで、ありとあらゆる日本語の辞典をそ
ろえている。言葉の背景にあるものを、きちんと把握するためだ。

「やはり、情報量は大事だと思います。知っていることが多いほど、表現は豊かになる。ただ、辞書に
書いてあることにとらわれすぎてもいけないと思います。最終的には、自分の感覚が大切。たとえば、私は
オペラが大好きなんですけど、リブ・タイラー主演の『オネーギンの恋文』を翻訳したときは、この作品を日頃
からオペラで観ていたことが良かったんじゃないかと、自分でも思っているんです（笑）。オペラを見たこと
がなくて、本や資料から得た知識だけで訳していたら、全く違ったものになっていたのではないかと。ですか
ら、経験を重ねていくっていうことも、言葉をブラッシュアップすることにつながると思います」...（略）